

専大校友を訪ねて



tvkの報道記者 齋藤 新さん (平28ネット情報)

大学卒業後、テレビ神奈川(tvk)に入社。東京支社営業部などを経て2020年10月から報道部で記者として活躍する。テレビ局の記者は取材や原稿作成に加えて、現地からのレポートや映像の編集などもこなす。県警と司法を担当する齋藤さんは記者クラブに詰め、ひとたび事故や事件が起きれば昼夜問わず現場に駆け付ける。

仕事柄、センシティブな情報を扱う機会が多く、自分の言葉一つで関係者の人生を大きく変えてしまう恐れもある。「報道の自由には大きな責任が伴う。細心の注意と配慮、そして取材相手への敬意を忘れてはならない」と表情を引き締める。肉体的にも精神的にもタフな仕事を支えているのは、報道記者としての強い信念だ。取材の過程で被害者や遺族が抱えるやり場のない思いに触れてきた。「社会に埋もれがちな市井の人の声を拾い上げ、世の中に伝えたい」。報道記者2年目を迎え、さらなる責任とやりがいを感じながら日々仕事に取り組んでいる。

強い信念持ち 市井の人の声伝える

「将来どんな道に進むにせよ、学生時代からニュースなどに触れ、社会で起きている出来事やトレンドに広く関心を持つことが大事」と話す。そして「一歩踏み込んで背景に目を凝らすと、社会に潜むより根深い問題や仕組みが見えてくる。それを自分なりに深掘りすることで、物事に対する問題意識や感度を高めることができるはず」とアドバイスする。

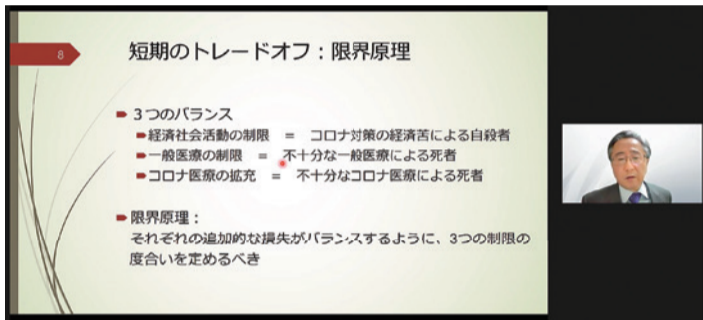
高校生の頃からテレビ局への就職を志望し、「メディアコンテンツ制作が専門の福富忠和教授(現・文学部)のもとで学びたい」とネットワーク情報学部に入学した。3年次のときには、福富プロジェクトが運営するコミュニティテレビ局「かわさきワンセグ」の代表を務め、番組制作を統括。鳳祭の生放送をはじめ数々の番組を手掛けた当時を、「共感し合える仲間たちと一つ一つのを作り上げる作業は最高に楽しかった」と振り返る。かわさきワンセグのプロジエクトは、技術の進化に合わせて形を変えながら、文学部ジャーナリズム学科の後輩たちにも引き継がれている。

福富教授とは卒業後も交流があり、学生時代と変わらぬ熱量で報道やコンテンツについて語り合うという。「先生からは礎となる知識やスキルを教わった。『自慢の教え子』と言ってもらえるように努力を続け、少しでも恩返しができる」と笑顔を見せた。

経済学研究科 政策科学シンポジウム

ポストコロナの経済展望

大学院経済学研究科 本経済が10月30日、オキダ」と説明した。(遠山浩研究科長)が主催する政策科学シンポジウム「ポストコロナの日本経済」が10月30日、オキダ」と説明した。



小林慶一郎氏による基調講演

慶應義塾大学経済学部教授で、政府の新型コロナウイルス対策分科会メンバーの小林慶一郎氏が基調講演。医療が逼迫する感染爆発期には「経済社会活動の制限、一般医療の制限、コロナ医療の拡充それぞれ」の追加的な損失が釣り合うように、三つの制限の度合いを定めるべき

田中教授は生産性上昇のために「情報化や研究開発・人材育成・組織構築などの無形資産投資」に力を入れるべきだと語った。櫻井教授は「長期的視点で少子化対策に取組み、財政資源を次世代のために使うことが重要だ」と結んだ。

学習評価について講演

教育学会 第69回大会 小中高の教員など教育に携わる卒業生でつくる「専修大学教育学会(会長 長川木重人学長)」の第69回大会が11月23日、2年ぶりに開催された。感染症拡大を防ぐため規模を縮小し、オンライン形式で実施した。文部科学省で教科調査官などを務め、現在は国立館大学教授の澤井陽介氏が講演。2017年告示の学習指導要領や、中央教育審議会の「令和の日本型学校教育」に関する答申の要点を整理しながら、趣旨や具体策を分かりやすく解説した。

寄附講座「税理士租税講座特論」 専大会計人会が協力 租税手続を解説

租税や税理士制度について、実務の世界で活躍する税理士から直接学ぶ商学部の特殊講義「税理士租税講座特論」(松本徹准教授)が神田キャンパスで開かれている。

日本税理士会連合会が提供する全15回の寄附講座で、本学卒業生でつくる「専修大会計人会」の税理士などが講師を務める。11月18日は、会計人会の前会長の吉田伸江氏(昭54院商修)が講義を行った。



「会計の専門家と同時に法律家でもある」と心構えを伝えた吉田氏

講義テーマは「租税手続と納税者の救済制度」。税法体系を整理したうえで、納税者の救済制度について解説した。行政不服審査法と国税通則法の関係、国税不服申立制度の概要や取り消し訴訟の仕組み、救済制度における税理士の役割などを分かりやすく説明した。税理士法の改正により、租税に関する事項について、税理士は補佐人として裁判所に出頭し、陳述できるようにになった。吉田氏は、「市民の権利を守るという重要な

霧をばらう 霧をばらう 霧をばらう 霧をばらう

事件で逮捕されたのは、生き残った女児の母親だった。警察の取り調べで一度は犯行を認めるも、その後は一貫して無実を主張。世間の注目を集める点滴死傷事件には、疑念という名の霧が深く立ち込める。

21年度秋の叙勲・褒章 瑞宝小綬章 野澤佐氏(昭49法・埼玉) 会計検査事務功労 玉) 監査功績 村井孝氏(昭47経済・富山) 防犯功績 柴崎順三氏(昭55法・埼玉) 社会福祉功績

古葉竹識氏(こば・たけし) 推薦校友・元広島東洋カープ監督。 11月12日、85歳で死去。1955年、商経学部入学と同時に野球部に所属。翌年退学し、社会人野球の日鉄二瀬を経て58年、広島入団。内野手として活躍した。75年に監督に就任し、リーグ優勝4回、日本シリーズ制覇3回。99年野球殿堂入り。

専修人の新しい本

霧をばらう

霧をばらう

霧をばらう